

放射線診断科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 神経内分泌腫瘍肝転移に対する経動脈的治療：後方視的研究

[研究機関] 北海道大学病院放射線診断科

[研究責任者] 阿保大介（放射線部・助教）

[研究の目的] 神経内分泌腫瘍肝転移（以下、NET 肝転移）の治療法に肝動脈塞栓療法：NET 肝転移を栄養する血管をつめる（塞栓する）、肝動注療法：NET 肝転移を栄養する血管から抗癌剤を注入し、腫瘍を薬づけにする、および肝動脈塞栓療法と肝動注療法を同時に行なう肝動脈化学塞栓療法があります。肝癌を栄養する血管をつめる（塞栓する）、また腫瘍を薬づけにすることにより NET 肝転移を壊死させる治療です。今回の研究の目的は、これらの治療を受けられた症例の治療結果を全国的に調査し、治療成績を検討することです。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

本研究の対象者は既に経動脈的治療を受けられ、以下の条件を満たした症例です。

- 1) NET肝転移に対して肝動脈塞栓、肝動脈化学塞栓および肝動注療法を行なわれた、または肝切除後の再発に対して肝動脈塞栓、肝動脈化学塞栓および肝動注療法を行なわれた症例。
- 2) IVR学会修練機関で肝動脈塞栓、肝動脈化学塞栓および肝動注療法が行われた症例。
- 3) 2013年5月までに肝動脈塞栓、肝動脈化学塞栓および肝動注療法が行われた症例。

NET 肝転移の診断の診断が以下の条件を満たした症例です。

- イ) 原発巣から組織学的にNETが証明され、画像診断で肝転移が疑われた症例
- ロ) 原発不明もしくは肝原発の場合、肝腫瘍から組織学的にNETが証明された症例
- ハ) 原発不明もしくは肝原発の場合、ホルモン検査、臨床症状および画像診断で肝転移が疑われた症例

●利用するカルテ情報調査項目：

本研究は既に施行されている経動脈的治療の治療結果を評価します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、個人識別、既往歴、臨床診断、画像診断、手技、治療効果、予後です。生存率、局所制御率、予後因子等を検討します。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院放射線診断科

電話 011-716-1161

担当医師 阿保大介

FAX 011-706-7876